

将来に向けたケーブル独自の高付加価値サービスを考える!

香川テレビ放送網(KBN) FTTH化を見据え データ放送を中心とした 様々なサービスを展開!!



▲香川テレビのデータ放送トップ画面

香川テレビ放送網(以下 香川テレビ)では、2009年からデータ放送を運用してきたが、2014年7月に更に高機能なデータ放送機能を搭載したメディアキャストの「DataCaster M3」にグレードアップし、データ放送強化とともにケーブルの利点を活かした様々なサービスを展開している。それが「地域情報チャンネル」、「KBNいんぷお」、「ご案内チャンネル」、「ガイドチャンネル」である。香川テレビのサービスはデータ放送技術を最大限に活かしたケーブルサービスとして注目を集めている。

FTTH化への 最も重要な課題

最近のケーブルテレビでの話題は今後のFTTH化に対する課題だ。その最も重要なのはFTTH化を終えた後にあり、ケーブルテレビとしての高い付加価値を持つていないと生き残っていけない。現段階からその準備は必須で、その代表格が4K映像配信であり、さらに高機能&双方向の側面からも検討する必要がある。

これまでケーブル局では、データ放送機能を使い、地域情報をテレビで配信するというケーブル特有のサービスとして急速な発展を遂げ、さらには副産物として多くの地域情報の蓄積と共に地域団体(自治体、消防、警察、ほか)との強固な連携という資産も形成された。今後のケーブルは、これら資産を活かすことで、データ放送をコミティからのネットサービスへの入口とし、様々な双方向サービスへ展開が出来る可能性を秘めているといえる。

今後のデータ放送に必要なのは？を徹底検証

香川テレビでは、データ放送設備グレードアップの際に、今後の将来像を見据えて様々な検証を実施した。「これまでの視聴者からのニーズと、コンテンツ面や運用面を改善し、将来に向けてのサービス展開について徹底的に検証しました」と北村昌士社長。その結果、次の結論に達した。

- ① 情報収集の自動化による運用負荷の軽減
- ② 操作性向上と共に、いつでも瞬時に最新情報が見られるコンテンツ



▲左から田尾彰教 制作部長、北村昌士 代表取締役社長、松永公伸 取締役営業部長

- ③ 加入促進と解約防止への貢献

- ④ 将来的なハイブリッドキャストやBS4Kを見据えた双方向サービス

- ⑤ ネット接続による動画配信

最新のデータ放送技術をフル活用、同時にスマホ連動も!

ケーブルテレビでのデータ放送やスマホ展開では圧倒的な実績を持つメディアキャストへ相談することで、まず全国のケーブルにおける多数の事例を参考にしながら自動化によるデータ放送運用の大幅な負荷軽減と操作性向上、そしてツイッター、フェイスブックなどのSNS連携を搭載したコンテンツを実現しながら、地域に徹底した情報を配信している。

またこれらデータ放送用に自動収集した地域情報は、「KBNチャンネル(地デジ121)」のデータ放送と共に、アンドロイドやiOSに対応したスマホアプリ「KBNいんぷお」へも同時配信しており、スマートフォンの機能特性を活かし、早明浦ダムや瀬戸大橋のライブ動画も配信している。

3つのチャンネルへ別々にデータ放送コンテンツを配信

香川テレビではメインコミチャンネル「KBNチャンネル（121ch）」のほかに、「ご案内チャンネル（112ch）」、「ガイドチャンネル（111ch）」を設け、「DataCast er M3」の「マルチサービス機能」をフル活用し、3つのチャンネルへ別々のデータ放送コンテンツを配信している。

全情報（火災、地震、災害緊急、ヨイチメールなど）や、生活情報（ゴミ収集、休日当番医、お悔み、気象、ダム情報、イベントなど）、KBN情報（取材一口メモ、番宣、メンテ情報など）等があり、1回の操作で各コーナーへ直接遷移させ、情報を閲覧出来るなどの工夫が施されている。

加入促進と解約防止のための営業戦略的なチャンネル

メインコミチャンネルの「KBNチャンネル（121ch）」では、チャンネルを選択すると視聴を妨げない程度のL字枠が自動表示されデータ放送への誘導を託す仕組みを採用。コンテンツとしては安心安全

「ご案内チャンネル」は、ケーブル局のニューメディア（NCV）とメディアキャスストが共同開発した「ご案内チャンネル」をベースとし、20ch分の多チャンネル画面を二面表示し、データ放送機能を使って各チャンネルへの遷移や契約を託す案内表示をするもの（多チャンネル画面は数秒毎に切替わるが、その切替え同期技術がニューメディア、瞬時に切替えるイベントメッセージとBML技術がメディアキャススト）。

実際の映像が与える効果は絶大であり、当チャンネルは既契約者のチャンネルへの接触率の向上、非契約者へは放映しているだけで営業的效果が期待できる。

「ガイドチャンネル」は、プラットフォームとメディアキャスストが共同展開するデータ放送による番組レコメンドサービス「OSUSU・me（おすすみ）」をベースにしており、

プラットフォームから送られてくる各CHの番組情報をデータ放送で配信するものだ。

今までのガイド誌による手法と比較し、内容変更や追加がタイムリーに行えるのと、何よりも制作&印刷、そして配布コストが大幅に軽減できるメリットがある。香川テレビでは「ガイドチャンネル」開始以降はガイド誌の発行はしておらず、年間数千万円のコストダウンを実現している。

北村昌士社長は、「デジタルデータの利点を活かし、スマート端末やハイブリッドキャスストへの応用など、さらなるサービスへの展開も検討している」と語る。

この「ご案内チャンネル」と「OSUSU・me」は、データ放送を応用し、第2ネットワークIDまでを有するケーブルの特性を活かし、営業戦略的に活用する試みとして注目されており、今後のケーブルテレビでは同様なケースが増えてきそう。

FTTH化後の4K・IP動画配信と双方向サービスに向けて

香川テレビは、今後のIOE（Internet of Everything）の流れのなかで、一気にテレビがネット接続され、今までのデータ放送の制約で実現出来なかった動画配信をはじめ、テレビを中心とした双方向サービスが容易になってくると見ている。

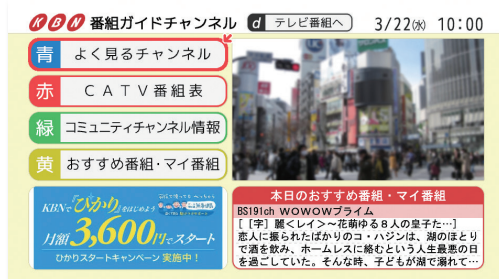
まずその実現にはハイブリッドキャスストやHTML5、MPEG-DASHなどの技術が必須であるのと、対応受信機の普及や特性、権利処理、サーバー負荷、ネットワーク帯域など様々な問題を解決していく必要がある。

今後も香川テレビでは、NHKやキー局などで様々な実験を経験し、BS4Kも含めた多くの知見を有するメディアキャスストと共に模索し続け、積極的にチャレンジしていく意向だ。



▶「KBNいんぷお」トップ画面

▼「ご案内チャンネル」画面



▲「ガイドチャンネル」画面

MEDIACAST
Hybridcast ready

株式会社メディアキャスト

- TEL : 03-5449-6701
- E-Mail: info@mcast.co.jp
- URL: http://www.mcast.co.jp

広告